

厚生労働省国立病院部所管の医療施設における看護職の研修ニーズ

小澤三枝子^{*1}，鬼窪久美子^{*1}，西尾和子^{*2}

【要 旨】 厚生労働省国立病院部が所管する国立高度専門医療センター，国立病院，国立療養所の看護部長・総看護婦長 207 名を対象に，郵送留め置き法による質問紙調査を行った。調査期間は，2001 年 7 月下旬から同年 8 月上旬である。回収率は，91.8%であった。

全施設の認定看護師は 11 名であった。今後，「感染管理」認定看護師を必要と考える施設が 133 施設（70.0%）と多く，次いで「WOC 看護」の研修ニーズが高かった。

「看護研究法」に対する研修ニーズも高く，94.7%の施設が研修が必要と考えていた。

「重度心身障害看護」の研修は，国立療養所の 52.6%の施設において「ぜひ必要」と考えられていた。この割合から，政策医療ネットワークで重度心身障害児（者）看護を担っているほとんどの施設において，当該研修が強く求められていると推察される。また，「精神保健看護」については 57.9%の施設で，また「災害医療看護」については 59.5%の施設で必要とされていた反面，「不妊治療の看護」や「臓器移植看護」の研修を必要とする施設数は少なかった。これらは特定の施設に特化された機能であるため，ニーズは少ないようにみえるが，政策医療としては重要な分野であろう。

その他の研修ニーズでは，高度先進医療と療養型医療それぞれのニーズが挙げられた。その内容は，政策医療ネットワークの各分野を反映しており，さらに長寿科学，リハビリテーションの分野を加えた内容となっていた。

この調査は，研修部が対象とする全施設を対象として行った調査である。得られた結果を参考に，政策医療がより効果的に行えるような人材の育成に寄与できる研修を企画していきたい。

【キーワード】 政策医療，政策医療ネットワーク，現任教育，研修ニーズ，認定看護師

1. はじめに

平成 13 年 4 月に国立看護大学校が開校し，看護学部と並んで研修部が設置された。「研修部」は，厚生労働省国立病院部が所管する国立高度専門医療センター，国立病院，国立療養所に勤務する看護職員を対象に，臨床看護実践能力や看護研究能力，看護教育能力の向上を図り，政策医療分野の看護において指導的な役割を担えるような人材を育成することを目的として，各種研修を行う部門である。

平成 13 年度には，認定看護師の教育機関認定を受け，感染管理認定看護師の研修を行っており，平成 14 年度以降の研修プログラムについても現在計画を立てているところである。

研修プログラムの立案にあたっては，政策医療的な意義と意図をもって研修を企画することが大前提である。しかしながら，研修対象施設あるいは研修対象者の研修ニーズも無視できない。政策医療ネットワーク¹⁾の最前線で臨床看護ケアを国民に提供しているのは各医療施設であり，その看護の長である看護部長・総看護婦長は政策医療の現場でどのようなことが起こっており，政策医療上，自施設にどのような「看護の技」が必要か判断できる立場にいる。また，教育効果の側面から考えても，学習者（研修対象者・研修対象施設）のニーズが高ければ，学習レディネスも整っていると考えられ，研修で行う教育内容の習得効果も期待できる。そのような観点から，看護部長・総看護婦長を対象にこの調査を行い，研

*1 国立看護大学校 研修部
〒204-8575
東京都清瀬市梅園 1-2-1
電話：0424-95-2211
FAX：0424-95-2698
メールアドレス：ozawam@adm.ncn.ac.jp

*2 国立看護大学校 研修部長

修の内容や優先度について慎重に検討したいと考えた。
この調査によって、臨床の場にとって優先的に求められている研修を明らかにし、今後の研修計画の参考としたい。

II. 調査方法

厚生労働省国立病院部が所管する国立高度専門医療センター(6施設)、国立病院(69施設)、国立療養所(132施設)の看護部(看護部長、総看護婦長)207名を対象とした質問紙調査(郵送留め置き法)を行った。調査期間は、平成13年7月下旬から同年8月中旬とした。

質問紙を資料1に示す。主な調査内容は、認定看護師の配置状況、認定看護分野への研修ニード、高度な看護技術を必要とする分野への研修ニード、である。

については、各施設に各認定看護分野の認定看護師が何人配置されているかを回答してもらった。については、日本看護協会が認定している10の認定看護分野およびその他の分野の中から、必要性が高い順に3つ選んで、回答してもらった。については、研修部が企画していた10の専門看護分野の研修に対して、施設としてどの程度必要と考えているかを回答してもらった。

この論文では、「国立高度専門医療センター(以下、NCと略す)」「国立病院」「国立療養所」の別を「種別」と呼ぶことにする。

調査票の回収数は、国立高度専門医療センターが5(回収率83.3%)、国立病院が68(回収率98.6%)、国立療養所が116(回収率87.9%)、「種別」不明の1を合わせ、計190である。全体での回収率は91.8%であった。

III. 結果

1) 認定看護師の配置状況

認定看護師の配置状況を表1に示す。回答があった施設全体で、認定看護師は11名であった。その内訳は、「創傷・オストミー・失禁看護(以下、WOC看護)」6人、「重症集中ケア」2人、「ホスピスケア」2人、「がん性疼痛看護」1人であった。認定看護分野のうち、「救急看護」「がん化学療法看護」「糖尿病看護」「感染管理」の認定看護師はいなかった。

2) 認定看護師を必要とする分野

認定看護師を必要とする分野(日本看護協会の認定看護分野)への研修ニードを図1に示す。最も研修ニードが高かったのは「感染管理」で、「最も必要」と回答した施設が75(全体の39.5%)、「2番目に必要」と回答した施設が36(全体の18.9%)で、必要順位1~3位までに

挙げた施設の合計は133(全体の70.0%)であった。必要順位3位までに「感染管理」を挙げた施設を「種別」で見ると、NCでは5施設中3施設(60.0%)、国立病院では68施設中52施設(76.5%)、国立療養所では116施設中78施設(67.2%)であり、いずれも高かった。

次いで、「WOC看護」の研修ニードが高く、必要順位3位までに「WOC看護」を挙げた施設の割合は、NCでは2施設(40.0%)、国立病院では27施設(39.7%)、国立療養所では46施設(39.7%)であった。

その次には、「がん化学療法看護」「糖尿病看護」「救急看護」が比較的ニードが高かった。

表1: 認定看護師配置状況(平成13年8月現在)

		(人数)		
分野	種別	NC	国立病院	国立療養所
		n=5	n=68	n=116
救急看護				
WOC看護		5	1	
重症集中ケア			1	1
ホスピスケア		2		
がん化学療法看護				
がん性疼痛看護			1	
糖尿病看護				
感染管理				

3) 高度な看護技術を必要とする分野への研修ニード

本学が準備室の段階で公表した政策医療上必要と考えている各分野(研修)および看護研究法に関する研修ニードを図2に示す。最も研修ニードが高かったのは「看護研究法」で、128施設(67.4%)が「ぜひ必要と考えている」と回答した。「ぜひ必要と考えている」「どちらかという必要と考えている」を合わせると、その割合は94.7%となる。

次いで研修ニードが高かったのは「重症心身障害看護」で、70施設(36.8%)が「ぜひ必要と考えている」と回答した。「どちらかという必要と考えている」の18施設を合わせると、46.3%が必要と考えていた。特に国立療養所では、61施設(52.6%)が「ぜひ必要と考えている」と回答しており、これに「どちらかという必要と考えている」の9施設を合わせると、60.3%の施設において研修ニードがあった。

「精神保健看護」については、45施設(23.7%)が「ぜひ必要と考えている」と回答し、「どちらかという必要と考えている」の65施設を合わせると、57.9%の施設で研修ニードがあった。

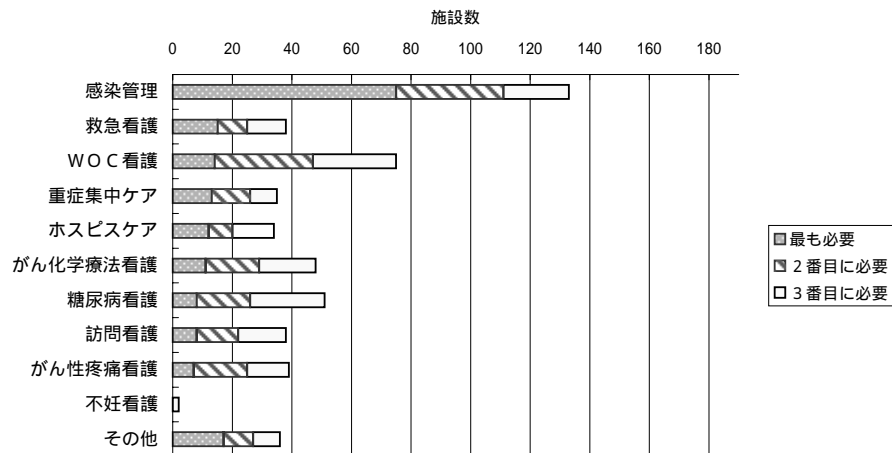


図1：認定看護師を必要とする分野への研修ニーズ

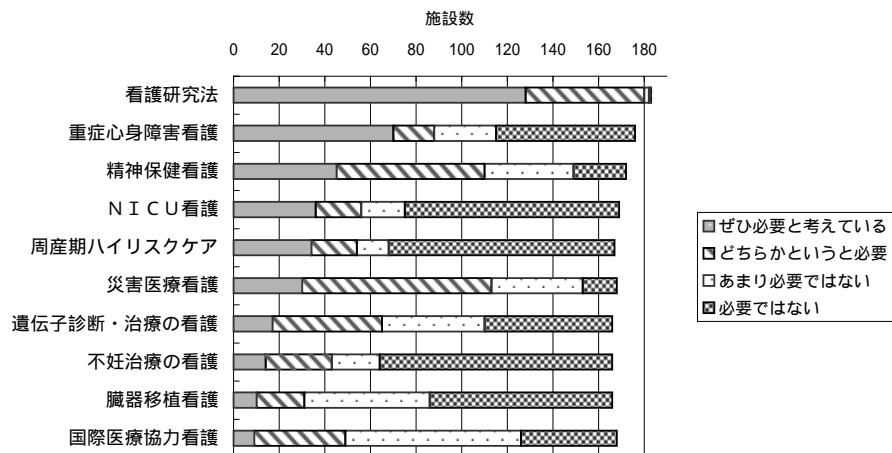


図2：高度な看護技術を必要とする分野への研究ニーズ

「災害医療看護」は、「ぜひ必要と考えている」は30施設（15.8%）と目立って多くはないが、「どちらかという必要と考えている」の83施設を加えると、59.5%の施設において研修ニーズがあった。

4) その他の研修ニーズ

その他の研修ニーズについて、自由記載で回答してもらったところ、以下の通りであった。

精神看護（リエゾン）、精神科救急、アルコール依存症のケア、カウンセリング、ターミナルケア、インフォームドコンセント
 系統的な重度心身障害児（者）看護、筋ジストロフィー看護、生活技能訓練

小児看護、未熟児看護、NICU、家族看護
 呼吸療法、肺理学療法、難治性結核
 HIV看護
 腎疾患
 長寿医療、痴呆看護
 リハビリテーション看護、外来看護、循環器看護
 治験コーディネーター

これらの内容は、政策医療ネットワークの各分野を反映しており、さらに、長寿科学、リハビリテーションの分野を加えた内容となっていた。また、それ以外にニーズがあった研修は、看護管理者研修（看護部長・総看護婦長、婦長対象）、現任教育担当者の研修、実習指導者のフォローアップ研修、情報管理研修；記録の開示、倫理

など、ディスチャージプラン研修、EBN（エビデンス・ベースド・ナーシング）、リスクマネジメントなどであった。卒後研修のシステムをつくって欲しいという意見もあった。

5) その他、各種要望・意見

研修部に寄せられた各種要望のうち、今後の研修に反映できそうな内容は、小規模の施設も出られるようにして欲しい、研修参加の機会を公平に与えて欲しい、地方や各施設に講師を派遣して欲しい、短期の研修を回数多く行って欲しい、研修に参加できる人数枠を増やして欲しい、研修時期は代替要員を採用しやすいときに、などであった。

また、国立看護大学校への要望になるかもしれないが、データバンクとしての役割を期待する意見、大学校の図書館の利用（インターネット利用、文献複写サービス）を望む意見、全国での卒業生の活躍を期待する意見などがあった。

IV. 考察

1) 認定看護師の配置状況

調査で分かった認定看護師の配置状況は、調査時点（平成13年8月）で4分野11名であり、NCに集中している。日本看護協会によると、平成13年8月1日現在、全国の認定看護師は546人が登録されている²⁾。この実情から考えると、少ない配置数である。代替要員の予算化もされていない状況では、看護職員を研修に長期派遣（認定看護師教育の場合は6ヵ月以上）することは困難であり、これまでは退職して教育を受けざるを得なかった。今回の研修部の設置によって、この状況は近い将来改善されていくものと考えられる。

2) 認定看護分野への研修ニード

各施設は、それぞれの機能に応じた認定看護師を望んでおり、認定看護師コースも幅広く求められていた。その中でも、特に「感染管理」認定看護師の教育に対するニードが極めて高いことが分かった。現在、研修部で行っている認定看護師教育課程「感染管理コース」の養成数は、6ヵ月間に20名である。必要順位1～3位までに「感染管理」を挙げた施設は133施設で、それらの施設に感染管理認定看護師が全数配置されるまでには、定員を20名として単純計算すると6.7クール必要ということになる。必要順位1位に挙げた75施設についてだけでも3.6クール必要であり、「感染管理」の分野の研修を優先的に行うことは各医療機関のニーズにも合致していると考え

られる。

他の認定看護分野については「WOC看護」「がん化学療法看護」「糖尿病看護」「救急看護」が比較的ニードが高かった。これらは国立病院、国立療養所に共通して必要な内容と考えられ、研修の規模等を考慮して、計画を立てる必要がある。

3) 高度な看護技術を必要とする分野への研修ニード

ほとんどの施設（94.7%）において、「看護研究法」に対する研修ニードが高かった。各医療施設は、研修の中でも、特に看護研究の分野で国立看護大学校に期待していることがうかがえ、この期待に応えるような研修を企画することが急務であると考えられる。臨床における看護職にとって、研究を進めるにあたって困難な問題は山積している。川島みどり³⁾、上谷いつ子⁴⁾によると、

研究の方法論が身につけていない、手近に文献を参照できる条件や環境がない、研究計画の立案や研究の途上でぶつかる疑問を解明したり、方法上のアドバイスを身近で得るのが困難である、などである。これらの解決のための1方法として、大学校の図書館利用などの要望もあるであろう。したがって、実際の研究テーマに対して、研究計画書の段階からプロセスを踏んで、研究に取り組めるようなサポートも考えていかなければならない。

次いで、「重症心身障害看護」への研修ニードが高かった。窪田⁵⁾によると、78の国立療養所が重症心身障害児（者）の病棟（定員7,880人）を有している（平成13年6月1日現在）。国立療養所全体の約6割が重症心身障害児（者）のケアを担っているわけであるが、時代の流れとともに、さまざまな問題を抱えている。特に、対象の重症化に伴う濃厚な看護ケア、在宅重度障害児や家族への支援など、医療施設としての役割がより強く期待されてきている⁶⁾。国立療養所の61施設（52.6%）が重症心身障害看護の研修を「ぜひ必要」としているということは、回収率が100%であった場合132施設×52.6%=69.4施設となり、これは重症心身障害児（者）のケアを担っている国立療養所の数（78）に近い数値である。つまり、このネットワークのほとんどの療養所が研修を強く希望していると考えられる。この研修に関しても準備を進めることが必要であろう。

「精神保健看護」「災害医療看護」についても研修ニードが高かったが、一方で、「不妊治療の看護」や「臓器移植看護」の研修を必要とする施設数は比較的少なかった。これらは、特定の施設に特化された機能であり、全体から見るとニードは少ないようにみえるが、政策医療とし

て、先端的な医療における看護としては、今後重要になってくる分野である。

V. おわりに

全施設の認定看護師は11名であった。今後、「感染管理」認定看護師を必要と考える施設が全体の70.0%と多かった。「看護研究法」に対する研修ニーズも高く、98.4%の施設が研修が必要と考えていた。

「重度心身障害看護」の研修は、国立療養所の52.6%の施設において「ぜひ必要」と考えられており、政策医療ネットワークで重度心身障害児(者)看護を担っているほとんどの施設において、当該研修が強く求められていることが推察された。「精神保健看護」については57.9%の施設で、また「災害医療看護」については59.5%の施設で必要とされていた。その他の研修ニーズは、政策医療ネットワークの各分野を反映しており、さらに長寿科学、リハビリテーションの分野を加えた内容となっていた。

この調査は、研修部が対象とする施設全数を対象として行った調査であるため、研修部の研修を企画する際には重要な参考資料となる。得られた結果をもとに、研修の内容や優先順位、研修期間等を考慮して、政策医療がより効果的に行えるような人材の育成に寄与できる研修

を企画していきたいと考えている。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました各施設の看護部の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 政策医療課：政策医療推進計画（最終案），2001．
- 2) 日本看護協会看護教育・研究センター，専門看護師・認定看護師認定部ホームページ
<http://www.nurse.or.jp/kiyose/nintei/nintei4.html>
- 3) 川島みどり：看護実践者と研究とのかかわり，看護MOOK，No.40，36-43，1992．
- 4) 上谷いつ子，伊藤喜代，土田幸子：当院における看護研究に対する意識と研究の阻害要因，日本看護学会集録，第20回看護管理，70-73，1989．
- 5) 窪田勉：入所施設 - 設備の基準と施設の紹介 - ，小児看護重症心身障害児へのアプローチとトータルケア，24(9)，1318-1325，2001．
- 6) 岡田喜篤：重症心身障害児の歴史，小児看護 重症心身障害児へのアプローチとトータルケア，24(9)，1082-1089，2001．

資料 1

施設における研修ニーズ調査

問 1 あなたの施設が該当するものを 1 つ選び、 を付けてください。

- 1. 国立高度専門医療センター
- 2. 国立病院
- 3. 国立療養所

この欄には何も記入
しないでください

 1

問 2 あなたの施設には、認定看護師がいますか？ 該当する番号に 印を
付け、() 内に人数を記入してください。

- A. 救急看護 0. いない 1. いる (人)
- B. 創傷・オストミ・失禁(WOC)看護 0. いない 1. いる (人)
- C. 重症集中ケア 0. いない 1. いる (人)
- D. ホスピスケア 0. いない 1. いる (人)
- E. がん化学療法看護 0. いない 1. いる (人)
- F. がん性疼痛看護 0. いない 1. いる (人)
- G. 糖尿病看護 0. いない 1. いる (人)
- H. 感染管理 0. いない 1. いる (人)
- I. その他 () 0. いない 1. いる (人)

 2 A

 3 B

 4 C

 5 D

 6 E

 7 F

 8 G

 9 H

 10 I

問 3 あなたの施設に今後必要なのは、どの分野の認定看護師でしょうか。
下記 ~ の認定看護分野から必要性が高い順に 3 つ選んで、()
内に記入してください。新しい分野が必要な場合には その他 を
選択し、< > 内に希望分野を具体的に記入してください。

最も必要 () 2 番目に必要 () 、 3 番目に必要 ()

救急看護	糖尿病看護
創傷・オストミ・失禁(WOC)看護	感染管理
重症集中ケア	訪問看護
ホスピスケア	不妊看護
がん化学療法看護	その他
がん性疼痛看護	< >

 11

 12

 13

 14

問4 以下の研修について、貴施設としてはどの程度必要とお考えでしょうか。あなたのお考えに最も近い番号を()内に記入してください。
「ぜひ必要と考えている」研修については、どのくらいの期間の研修を期待しておられるか、参考までにお聞かせください。

ぜひ必要と考えている どちらかという必要と考えている あまり必要だとは考えていない 必要ではない

この欄には何も記入しないでください

	必要度	期間		15 国	16
「国際医療協力看護」	()	{	}	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
「臓器移植看護」	()	{	}	17 臓	18 <input type="checkbox"/>
「災害医療看護」	()	{	}	19 災	20 <input type="checkbox"/>
「重症心身障害看護」	()	{	}	21 重	22 <input type="checkbox"/>
「精神保健看護」	()	{	}	23 精	24 <input type="checkbox"/>
「遺伝子診断・治療の看護」	()	{	}	25 遺	26 <input type="checkbox"/>
「周産期ハイリスクケア」	()	{	}	27 周	28 <input type="checkbox"/>
「不妊治療の看護」	()	{	}	29 不	30 <input type="checkbox"/>
「NICU看護」 (新生児集中治療室)	()	{	}	31 N	32 <input type="checkbox"/>
「看護研究法」	()	{	}	33 看	34 <input type="checkbox"/>

問5 その他、必要な研修領域があれば、期間と併せて御記入下さい。

35 <input type="checkbox"/>	36 <input type="checkbox"/>
-----------------------------	-----------------------------

最後に、国立看護大学校研修部に期待することがありましたら、具体的にご記入ください。

ありがとうございました。予算や講師の関係ですぐには御希望の研修を開催できないかもしれませんが、みなさまに必要としていただける研修を企画していきたいと思っております。

Report

Training Needs of the Nursing Staff of Medical Care Institutions under the Jurisdiction of the Department of National Hospitals of the Ministry of Health, Labour and Welfare

Mieko Ozawa^{*1}, Kumiko Onikubo^{*1}, Kazuko Nishio^{*2}

【Abstract】 A questionnaire survey of 207 nursing division directors and general nursing service directors of highly specialized national medical centers, national hospitals, and national sanatoria was conducted by the general delivery mail method. The period of the survey was from late July 2001 to early August 2001, and the reply rate was 91.8%.

There were 11 certified nurses in the institutions as a whole. The largest number of institutions, 133 (70.0%), think that they will need certified "infection control" nurses in the future, and the second highest training need was for "WOC nursing".

Training needs in regard to "nursing research methodology" were also high, with 94.7% of the institutions thinking that training is needed.

Training in "nursing of the severely handicapped" was thought to be "definitely" needed in 52.6% of national sanatoria. This percentage suggests that such training is in strong demand by almost all of the institutions engaged in nursing of the severely handicapped in the Policy-based Medical Services network. Moreover, while 57.9% of the institutions indicated a need for training in "mental health nursing", and 59.5% said there was a need for training in "disaster care nursing", few institutions considered training in "infertility nursing" or "organ transplantation nursing" necessary. There appears to be little need for them because they have become specialized functions in specially designated institutions, but they seem to be important fields as Policy-based Medical Services.

Needs for highly advanced medical care and sanatorium-type medical care were mentioned among other training needs. Their content reflects the individual fields of the Policy-based Medical Services network, and it has even come to include the fields of gerontology[longevity science] and rehabilitation.

This survey was conducted on all institutions targeted by our Training Center for Nursing Development. We wish to plan training that is capable of contributing to the fostering of nursing personnel so that Policy-based Medical Services can be carried out more effectively by using the results of this survey for reference.

【Keywords】 Policy-based Medical Services, Policy-based Medical Services network, in-service education, training needs, certified nurse

^{*1}National College of Nursing, Japan
Training Center for Nursing Development
1-2-1, Umezono, Kiyose-shi, Tokyo,
204-8575, Japan
TEL:0424-95-2211
FAX:0424-95-2698
e-mail:ozawam@adm.ncn.ac.jp

^{*2}National College of Nursing, Japan
Director of Training Center